



「**んだから いったっぺ
早く逃げろって**」※

平第31区下平窪 区長（下平窪自主防災会長）
末永 和也さん

※平第四小学校防災かるたより



1

水害に学び、動き出した「防災」

平窪地区は、令和元年東日本台風で最大2m以上浸水しました。地名からもわかるように「窪んだ」土地であり、以前から水害のリスクはありましたが、実際に被害を受けるまでは「うちは大丈夫」と考える住民が多く、防災意識はあまり高くありませんでした。

この経験が無駄にしてはいけないとの思いでまず取り組んだのが「まちを知ること」です。そこでわかったのが、住宅地や田畑が広がる平窪地区には、3階建て以上の避難に適した建物が非常に少ないこと。避難情報が出たらまずは地区外へ避難する。その思いを込めた「んだから いったっぺ 早く逃げろって」を合言葉に、新たに地区防災マップを作成しました。

水害の記憶を風化させないために

水害後に下平窪地区を離れる方が相次ぎ、その数は500世帯以上にのぼりました。そのため、活気を取り戻すべく

住民同士が楽しんで参加できる「子ども夏祭り」を開催しました。平時から顔を合わせることが、災害時に助け合える関係作りにつながると考えています。

水害から今年で7年が経ちます。若い世代や水害後の転入者など、水害を知らない方への伝承も課題です。生活再建をゴールとするのではなく、次の大雨に備え、地域ぐるみで防災意識の向上に努めていきます。

下平窪自主防災会の主な取り組み
地区内の場所ごとの浸水の深さや水の流れなど、実際の被害状況を反映した「地区防災マップ」を作成
アナログとデジタルの情報を融合し、二次元コードを読み取ることで、地区防災マップや被害状況の写真などを確認できる「アナデジ防災看板」を設置
電柱に標識を設置して、想定される浸水の深さを見える化する「まるごとまちごとハザードマップ」を作成

特集1

川とともに生きる ~水害に備えて~

生き物を育み、田畑に水と養分を届けるなど、私たちは古くから川とともに暮らしてきました。一方で、温暖化により水害が発生する危険性が増しており、本市でも大きな被害が発生しています。本特集では、水害を教訓にまちを守る地域の皆さんと本市の取り組みを紹介します。



1. 令和元年東日本台風で被災した様子
2. 防災教育に取り組む好間中学校の生徒達
3. 下平窪で開催された子ども夏祭りの様子
4. 下平窪地区の地区防災マップ
5. 改良が行われた夏井川



浸水防止用土のう袋・土砂の提供

期間 ~11/30(月) 平日8:30~17:15

場所 ※詳細は二次元コードで

①土のう袋=土木政策課河川政策担当
または各支所

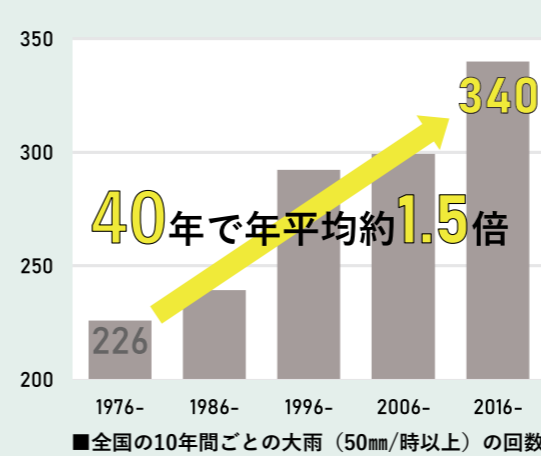
②土 砂=夏井川防災ステーション
ほか

「日頃からの備え」「緊急時には避難行動の徹底」で、命と暮らしを守ることができます。

「災害時に命を守る行動をとるためには、日頃から防災を意識することが重要です。市では、河川流域に関わる住民が協力し、大雨から命と暮らしを守る「流域治水」の取り組みを進め、防災意識の向上に努めています。また、リアルタイムで確認できる浸水センサの設置、県防災アプリでの雨量情報の公開など、雨天時に周囲の状況が把握できる仕組みづくりを進めています。また、市が配布する土のうの準備、ハザードマップでの避難場所の確認など、平時からできる対策は多くあります。

いわき市の取り組みと水害への備え



地球温暖化で増える災害級の大雨

まもなく迎える雨の季節。「梅雨」「長雨」など、雨を表す言葉が豊富な日本は、世界的にも雨が多い国です。恵みをもたらす一方、近年はゲリラ豪雨が多発。本市でも、平成5年以降目立った大雨被害が無かった中、令和元年、5年と立て続けに大規模な水害が発生しました。日本が東南アジアのように「亜熱帯化」していることが要因との見方もあります。平均気温が2度上昇すると洪水発生頻度が2倍になると言われており、地球温暖化が進む中、水害リスクは年々高まっています。その一方、大雨は天気予報で事前に備えることができるため、命を守る行動を取りやすい点ですが、地震とは大きく異なります。

6/27 土 市総合防災訓練

8:30～11:30
※予備日6/28(日)

大雨・洪水編

参加自由

訓練想定

大型台風の最接近に伴い、線状降水帯が発生

注意事項

- 緊急速報メールや防災メールを発信
- 河川流域で水防信号（サイレン）を吹鳴
- FMいわきによる緊急割込み放送

新「気象情報」を運用開始

避難の判断をしやすくするため、防災気象情報が変わりましたので、ご確認ください。



地区	会場	主な訓練内容	地区	会場	主な訓練内容
平	赤井中	空調付エアテントによる熱中症対策訓練	小川	小川小	健康ぼうさい体操
小名浜	泉北小	避難所警戒・巡視訓練 孤立集落からの海上輸送訓練	好間	好間中	トイレカー展示 ペット同行避難訓練
勿来	勿来二中	マイ避難シート作成 孤立集落からの海上輸送訓練	三和	三和ふれあい館	防災講話 ペット同行避難訓練
常磐	磐崎中 常磐共同ガス	応急手当訓練、防災講話、 垂直避難訓練、物資輸送訓練	田人	田人小・中	災害派遣資機材の展示 防災講話
内郷	高坂小	物資輸送訓練 ペット同行避難訓練	川前	小白井集会所	資機材取り扱い訓練
四倉	いわき商業情報高校 四倉校舎	炊き出し訓練 資機材取り扱い訓練	久之浜 大久	久之浜中	資機材取り扱い訓練
遠野	遠野小	防災講話			

※訓練内容など詳しくは二次元コードで



防災を日常に

一般社団法人Teco
事務局長 鈴木 靖子さん

「誰も孤立しない地域づくり」を目指し、平窪地区で活動を開始した同年、令和元年東日本台風が発生しました。災害後、誰もが不安を抱え、孤立する恐れがある中、何かできることはと始めたのが「みんなの居場所 てくてこサロン」です。生活再建が進む中でコロナ禍に突入し、人とのつながりが希薄となる状況が続く中でも、屋外での交流イベントや、住民主体の夏祭りや防災講座など、人と人とのつながりを絶やさない活動を続けてきました。

この経験から、防災は日常生活の延長線上にあるものと気づき、現在は地域コミュニティの支援に加え、防災意識向上にも力を入れています。

昨年は、ゲーム要素も加えた体験型防災アトラクションを企画し、数分で予約が埋まるなど市民の皆さんの防災への関心の高さも実感しました。また、市総合防災訓練では、市内で初めて避難所運営を市と連携して行いました。

「災害への備えは日常生活の一部」。それが当たり前と思える社会を作っていきたいです。



▲「みんなの居場所 てくてこサロン」の様子



支援される側から 支援する側へ

いわき市立好間中学校
3年 梅村 弥生さん

災害を強く意識するようになったのは、小学校6年生の時です。好間中学校の体育館が令和5年の台風で被害を受けた方の避難場所となっているのを知って、防災を「自分ごと」としてより強く考えるようになりました。

好間中学校では、令和元年東日本台風を教訓に、自助・共助・公助を学ぶ防災教育に取り組んでいます。1年生では、避難所までの経路や持ち出し品などをまとめた「防災ハンドブック」を作成。2年生では、防災の観点でまち歩きをして「地区防災マップ」を作成しました。少しの洪水でも水路と道路の境目が分からなくなる場所などを見つけ、「いつもの道でも見方が変わる」と感じました。3年生では避難所運営を学んでいきます。

これまでの学びは商業施設で開催された「防災EXPO」で発表しました。足を止めて聞いてくれる方もいて、防災の大事さを実感しました。これからは、今以上に地域の人とのつながりを強め、いざという時に助け合える関係をつくっていききたいと思っています。



▲避難所運営訓練に取り組む梅村さん

災害の「備え」チェックリスト



災害はいつ起こるか分かりません。万が一の時に慌てないためにも、日頃から必要な備えをしておきましょう。避難が必要な時には、避難先で困らないように非常持ち出しリュックを準備しておくことで安心です。

- | | | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 水 | <input type="checkbox"/> 食品（最低3日分） | <input type="checkbox"/> タオル | <input type="checkbox"/> 衣類・下着 |
| <input type="checkbox"/> 雨具 | <input type="checkbox"/> 紐なしのズック靴 | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ |
| <input type="checkbox"/> 携帯用充電器 | <input type="checkbox"/> マッチ・ろうそく | <input type="checkbox"/> 救急用品 | <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ |
| <input type="checkbox"/> ブランケット | <input type="checkbox"/> 歯ブラシ・歯磨き粉 | <input type="checkbox"/> 洗面用具 | <input type="checkbox"/> ペン・ノート |
| <input type="checkbox"/> 防災用ヘルメット | <input type="checkbox"/> マスク | ※その他必要なものを家庭で話しあってみましょう | |

水害の備えを！



いわき市長
内田 広之

もうすぐ水害の多くなる季節です。皆さん、備えは十分ですか？

浸水や停電等に備え、食糧・水など、備蓄品の準備はありますか？近くの避難所はどこかご存じですか？家族と離れ離れになってしまった時の連絡方法は話し合っていますか？あらかじめ自動車避難する場所を確かめていますか？

近年は、地球温暖化によって、大雨の回数が多くなっています。いわきでも、3年前の「線状降水帯」（令和5年台風第13号）や、令和元年東日本台風で「これまでは大丈夫だったのに、今回はこんなに浸水した」という声を各地で聞きました。

備えあれば憂いなしです。市では、災害時などにも医療機関や緊急車両に必要な燃料を安定的に確保できるように、県石油業協同組合と連携協定を締結する等、災害への備えを進めています。市民の皆さんも、いつ起こるか分からない水害の危険に備え、しっかりと準備しておきましょう。